

住民参加で「地域計画づくり」を進めよう

農委会が「楽しく、意見が出る座談会」をリード



班ごとに「笑顔で座談会」を体験



各班がアイデアを発表後シール投票を行った

集落座談会で「次世代に農業をつなげるアイデア」を出し合うための特別研修会が7月19日に舞鶴市内で開かれ、府内の農業委員・農地利用最適化推進委員など約50人が参加。会議ファシリテーターの澤畑佳夫氏(全国農業会議所専門相談員)からの「地域計画づくり」の、はじめの「ステップ」の、楽しく、意見が出る座談会の進め方」を学んだ。

特別研修会(7/19)に50人参加 舞鶴市で

主体的に参加し、地域として取り組む内容を絞り込む必要がある。そのため、農業委員会の委員は、「参加者が自分の思いを出し合える会議の進行方法」を習得し、農区長らと協力して地域の話し合いを前に進める役割が期待されている。

地域計画 全地区で12月までに作ろう!

市独自の「話し合いの手引き」作成 農家組合長と委員に説明

南丹市・農業委員会



南丹市と市農業委員会は、8〜12月に全地区で地域計画づくりを主体的に進めてもらうため、市独自の「話し合いの手引き」(写真)を作成。7月18日から24日に旧町単位の説明会を4回開催し、農家組合長と農業委員が協力して各地区の

話し合いを推進できる体制を整えた。

南丹市農業委員会は、7月の改選で、全委員48人のうち32人が新任委員となった。そこで、「話し合い」では、前期の委員による成果(非農地判定十耕作者実態把握)を土台に「5年後の耕作者と利用意向」を地図化し、話し合いの中で「耕作者がいない農地」を減らす取り組みをわかりやすく解説している。

南丹市では、新たな農業委員と推進委員も加わり、今月から市内各地で話し合いがスタート。「地域主体の計画づくり」に取り組み動きが進んでいる。

新会長の抱負

南丹市農業委員会 浅田 均会長(66)



有害鳥獣対策に力を入れたい。市や猟友会と協力して有害鳥獣対策を推進し、農作物の被害を減らしたい。現在、地域計画づくりに取り組んでいるが、担い手の耕作意欲の喪失により、2〜3年先が見通せない地区もある。南丹市の農業を守り残していくため、会長として、担い手農家と農業委員・推進委員の連携に力を入れ、円滑な活動ができる環境づくりに取り組んでいきたい。

京都

京都府支局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 府庁西別館内 075・441・3660

1世紀前の大麦品種 「ゴールデンメロン」を復活



ゴールデンメロンの拡大に取り組む 岡本会長

「京田辺農福観地域づくり協議会」(岡本和雄会長)は、かつて市内で盛んに栽培されていた大麦品種「ゴールデンメロン」の栽培を復活させた。

ゴールデンメロンは、明治時代に普賢寺地区の農家・田宮龍太郎が栽培方法を確立し、府内に広まった。戦前はビールの原料として栽培されたが、戦後は輸入に押され、市内での生産は廃れた。復活に向け、農研機構(京田辺市農業委員

環境にやさしい農業で 地域活性化に挑む

与謝野町 (株)AGRIST 太田 桂史さん



商談会で「超人米」をPRする太田桂史さん

与謝野町石川で(株)AGRISTの代表取締役を務める太田桂史さん(33)は、地元の高校を卒業後、滋賀県の農業大で学び、父の経営を手伝うため2012年に帰郷して就農した。その後、経営規模を拡大して農業所得向上や地域雇用創出をめざそうと考

女性委員が「つないで発信」 お茶のお菓子教室を開催

宇治市 柴田千絵美さん



京都宇治の白川地区に、夫婦で家業を継承されている柴田千絵美さん。夫 碾茶は、品質重視の全信哉さんが40歳の頃、て手摘み。毎年5〜6月長年勤めた会社を退職の約2カ月間、千絵美さん

んは、お茶摘みさんを集めて段取りをし、自らもお茶を摘んで芽運びをするなど、お茶の仕事に専念しています。それが一段落すると、お菓子教室『Preferre(プリフェリ)』を開催します。『Preferre』は、フランス語で「お気に入り」の意。最小限の材料と手に入りやすい道具を使って、Preferreで作るお菓子と過ごす時間が皆さまのお気に入りになれたらいいな、この思いでレッスンをされています。また、就農と同時に取得した日本茶インストラクターの活動からご縁をいただいていたお菓子販売については、「一家庭がお茶や、お茶の香りを染しめる、ほんまもんのお茶のお菓子を作って販売したい」と意気込みを語られていました。(宇治市農業委員会・徳田明子委員)